2019 年 7 月 30 日
株式会社オリエンタルランド

2020 年 3 月期 第 1 四半期決算 電話説明会 質疑応答

実　施　日　：	2019 年 7 月 30 日（火）
当社説明者：	取締役常務執行役員　横田 明宜
	IR グループマネージャー　菅原 海（司会）

以下は、説明会における主な質疑応答を取りまとめたものです。

Q1）期初予想では昨年度に東京ディズニーリゾート 35 周年イベントを開催していたことによる入園者数の反動減を見込んでいたが、なぜ上回ったのか。

A1）反動減は宿泊圏ゲストを中心に見られたものの、両パークで実施したディズニー・イースターが好調に推移したため、想定を上回るゲストをお迎えすることができた。加えて、ゴールデンウィークが 10 連休と例年より長く、その期間が天候に恵まれたことなども含め、外部要因による影響も多分にあった。

Q2）昨年度と比べて営業利益率が改善しているが、期初予想で増加を見込んでいたシステム関連費用などの進捗はどのようになっているか。

A2）営業利益率は、商品・飲食原価率や諸経費などの費用が減少したことなどにより改善した。ただし、諸経費は時期ずれとなっているものもあり、第 2 四半期以降に解消される見込みであるため、通期では予定どおりの費用水準となると考えている。

Q3）商品・飲食原価率が対前年で減少した要因は何か。

A3）商品原価率は、余剰在庫の減少により評価損率が低下したことなどから減少しており、飲食原価率は、売上高の増加により製造人件費率が低下したことなどから減少している。

Q4）「ソアリン：ファンタスティック・フライト」が開業したが、導入目的の一つであるゲスト滞留バランスの分散化の効果はあったのか。入園者数の増加によって混雑感が増してはいないか。

A4）今のところ期待どおりの効果が生まれている。両パークを合わせて想定を上回る入園者数となったことから混雑感の高まりが懸念されるが、満足度や再来園意向は高い水準を維持している。7 月に導入した東京ディズニーリゾート・アプリ上で取得できるファストパスのように、今後もテーマパークの体験価値を向上させる取り組みを続けていきたい。

Q5）消費増税時のチケット価格改定の考え方はどうなっているのか。

A5）現時点では、消費増税の対応について決まっていることはない。過去の対応としては、増税分をそのまま価格に転嫁する方針をとってきた。

以上